

事務事業評価表（一般事業）

1次評価日（主幹等） 26年3月31日

2次評価日（課長等） 26年3月31日

1 事業名	災害支援事業	コード	91305
-------	--------	-----	-------

2 担当部課	部等 総務部	課等 危機管理室	作成者 小林 隆
--------	--------	----------	----------

3 事業概要	基本目標	自然環境と暮らしが調和した、安全・安心なまち		
	政 策	安全・安心な暮らしの確保	施 策	危機・防災・減災対策の推進
	予算科目	災害支援事業費	業務委託	一部委託
	実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
	根拠法令	なし		

●事業の内容（D0）

4 事業の概要等		*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）	
事業の概要 （簡潔に）	東日本大震災の被災地への復興支援		
目的	対象者	被災地住民	
	意 図	被災地の早期復興	

5 事業の実施内容		*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容	
①土木技師年間を通じて1名を宮城県塩竈市へ派遣し早期復興の支援を行った。 ②福島県からの避難者の受け入れ			
前年度の課題への 対応	特になし		

6 指標の達成状況		*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度（予算）	
① 活動指標（指標名）	職員派遣のべ日数			単位	人
	実績値	123	365	365	
	*指標の説明	派遣職員実人数			
② 成果指標（指標名）	職員派遣のべ日数			単位	日
	目標値	90	365	365	730
	実績値	123	365	365	
	達成度	136.7%	100.0%	100.0%	
	*指標の説明	職員派遣のべ日数			
	*目標値の設定方法の説明	H23職員3人×3ヶ月 H24～職員1人×1年間			

7 ア) コストの推移

* この事業にかかる費用 (人件費は、1人あたり年間800万円で換算)

[単位: 円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	30,033,645	2,047,125	1,584,440	3,111,000
経常経費	0	0	0	
臨時的経費	30,033,645	2,047,125	1,584,440	3,111,000
* 臨時的経費の説明	旅費、消耗品、車両借上げ料			
区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	1,600,000	1,600,000	1,600,000	1,600,000
正規職員の人数(人)	0.20	0.20	0.20	0.20
③ 合計コスト(①+②)	31,633,645	3,647,125	3,184,440	4,711,000
前年度比		11.5%	87.3%	147.9%
財源				
一般財源	31,483,645	3,647,125	3,184,440	4,711,000
内訳 特定財源	150,000	0	0	0
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	13,008	4,384	4,384	
前年度比		33.7%	100.0%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位: 件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

標準

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。		0
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。		0

9 有効性評価

* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

高い

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 100.0%	1
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 100.0%	1

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) 特になし	
	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) 特になし	
改善方法		
改善開始時期		

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---